

## 1 中期学校経営方針

### (1) 学校経営中期取組目標

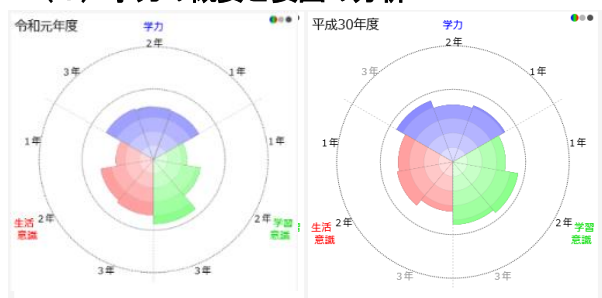
学校経営中期取組目標	
<p>○生徒一人ひとりが生き生きとした学校生活を過ごすよう、教職員が組織的・重層的に指導を進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が常に授業改善に努め、他と協働し、正しく考え、判断し、行動する力を伸ばす授業を実践します。</li> <li>・併設型小中一貫校の強みを生かし、英語の乗り入れや教育課程の編成等を通して組織的・計画的・継続的にブロック内の小学校と共に9年間で育てる子どもの育成をめざします。</li> <li>・社会の一員として人とのつながりを重視し、自分も他人も大切にする心と地域や社会と積極的に関わろうとする生徒の育成を図ります。</li> <li>・学習状況調査結果をもとに学習のつまづきを分析し、学習方法の改善と学習習慣の定着を図ります。</li> </ul>	

### (2) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野		取組目標	具体的取組
担当	確かな学力	身に付けさせる力を明確にした授業改善を図り、自他と協働して課題解決を図る力を育てる授業改善を進める。	①小中の系統性を重視した学習指導の工夫。 ②身に付けたい力を授業者と生徒が共有する授業を展開する。 ③言語活動を多く取り入れ、他と協働しながら課題を解決する学習を進める。 ④家庭学習の機会を増やし、進んで学習する習慣を身に付けさせる。
	学習指導部		

## 2 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握

### (1) 学力の概要と要因の分析



昨年度に比べ、学習・生活意識ともに市の平均を下回っている項目が多い。1, 2年の学習意識のグラフの幅が小さくなっており、それに伴って学力のグラフも縮小傾向が見られる。意欲的に学習に取り組める環境作りが大切である。また、すべての教科において市平均正答率を上回るよう、引き続き基礎基本の定着、学力の底上げが課題である。

### (2) 教科学習の状況

- 国語科：「話す・聞く」は市の平均より下回っているが、他の観点に比べて市の平均に近い。「知識・理解・技能」はどの学年でも課題があるとみられ、それが「読む能力」の縮小にもつながっていると考えられる。
- 社会科：現2年生は地理・歴史ともに、すべての観点で市の平均を下回っている。現3年生は地理、歴史ともにすべての観点で市の平均を下回っている。特に思考・判断・表現力の習得を目指し継続的な学習が必要である。
- 数学科：現2、3年生ともに全ての観点が市の平均を下回っている。知識・理解は市の平均に近く、基礎力についてはよいようである。技能習得を目指し、継続的な学習の必要性が感じられる。
- 理科：グラフの読み書きや粒子モデルについて、特に苦手な傾向にある。「理科の授業はどの程度わかりますか」の質問に対して「わかる」と答えた生徒が横浜市平均を下回っている。要因として、読解力が低く文章や図表から正確に理解することができていない傾向が考えられる。
- 外国語科：現2、3年生ともに学習意識が低く、多くの観点で市平均を下回っている。学習に対する意識改善を行いつつ、「言語に関する知識」を伸ばし、その他の観点につなげていく必要がある。

### (3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

学習に対する意識を過去と比較すると、「勉強が好き」「どちらかという好き」と答えた生徒の割合はこの3年間で34%→31%→27%と、やや減少傾向にあり、市の平均39%と比較しても低い数値である。家庭学習については1日1時間以上勉強している生徒はここ数年50%前後だったが、今年度は43%と低下している。さらに、まったくやらない生徒の割合は20%と、市の12%に比べるとまだ多い。また、SNSやスマホを3時間以上利用している生徒の割合は27%→30%→41%とかなり増えていて、市の24%と比べてもかなり多い。家庭での過ごし方をしっかり確認し、家庭学習のやり方なども丁寧に教えていく必要がある。

### 3 令和2年度 学年・教科等としての具体的取組

#### 国語

- 小学校で学習した内容を継承し定着させる。
- 様々な言葉に触れ、語彙力の向上を目指す。
- 短作文を書く機会を多く設け、書く力を伸ばせるよう指導する。
- 感想や意見を生徒同士で話し合う機会を多く設け、学び合うことで「話す・聞く力」、「書く力」を相互に伸ばせるよう指導する。

#### 社会

- 資料を提示し生徒間で考え、発言する機会を設けることで言語活動の充実を図る。
- 単元ごとに目標を明確し、達成できる単元計画を設定する。
- 授業の振り返りを通して、自らの課題に気付かせる機会を設定する。

#### 数学

- 基礎・基本の定着を図るために、発問の工夫や少人数指導により数学的活動の楽しさや数学の良さを実感できるようにする。
- 実生活や実社会の事象を数理的に考察したり論理的に説明したりするなどの活動を通して、数学的な考え方の力を伸ばし、身近な生活と関連付けた学習を意識した授業の展開を心掛ける。

#### 理科

- 興味関心を向上させて、理解を深める指導から転換し、知識の集積が生徒の興味を高めると考え、“わかる”指導を徹底し、生徒の理解を深め、問題集の活用を増やして定着を図る。
- 新型コロナウイルス感染症予防の影響から実現できるか不明であるが、観察・実験をできるだけ取り入れた授業を展開する。

#### 音楽

- 活動目標・内容を明確にして見通しをもって主体的に学習を進められるようにする。
- 音楽表現について意見交換する場を意図的に設定し、表現活動により関心をもてるようにする。

#### 美術

- 目標・内容を明確にして、見通しをもった主体的な学習ができる指導を工夫する。
- 美術が自分の生活を豊かにするものだとということに気づく題材を準備し、内容の充実を図る。

#### 技術・家庭

- 自分の生活を振り返り、よりよい生活をする為にどうすればよいか自ら課題を見つけ、その課題を解決できるような題材の設定を行う。
- 実習においての題材を生徒の体験や興味関心を把握し生徒の資質や能力を考えて題材の設定を行い、生徒が最後までしっかり取り組み、達成感を得られるようにする。

#### 外国語

- 繰り返し小テストを行うことで家庭学習につなげ、基礎基本の定着を図る。
- 「話す」、「書く」、「読む」、「聞く」の各技能を向上させるために語彙力向上を図る。
- 英語でコミュニケーション活動をする機会を多く持てるようにする。

#### 特別活動

- 学級活動では、係活動や班活動を通じ、生徒に責任をもって活動させる。
- 学校行事を通じて協働する喜びを味わわせる。
- 生徒会活動では、生徒会本部役員会や代議員会で、学校の課題について主体的に考え、解決していくため、多くの教員が関わり指導する。

#### 総合的な学習の時間

- 「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」という探求の過程を意識した活動となるようにする。
- 感染予防に注意をした上で、可能な限りの体験的な活動を計画し、様々な考え方や価値観を学ぶ。

#### 個別支援学級

- 社会で生活するために必要なルールやマナーなど基本的な知識や学力をしっかり身につけられるように学習環境を整える。
- 体力の向上を図るとともに、何事にも根気強く最後まで取り組めるように、指導の充実を図り、自己肯定感を味わえるようにする。

保健体育科は「体育健康プラン」に。道徳は「豊かな心の育成推進プラン」に記載する。